

(掲載写真はいずれもウェブサイトからの借用)

それはブラジルへの初めての出張で、無謀にもポルトガル語なんて一切覚える事もせずの出発だった。

リオデジャネイロ空港のロビーを出た途端、目を開けていられない程の強烈な太陽の光と熱気のお出迎えを受けた。

最終目的地は、CSN社がある山奥のボルタレドンダ市なので高速バスセンターへと向かった。

高速バスセンターで、ボルタレドンダ行きのバスを予約したのだが、出発までに3時間も有る。

ムラムラ、探検心が(?)が沸いてきた。海岸沿いにある高速バスセンターの対面にニテロイ島が見えた(その時は島と思っていた)そして、近くの海岸からニテロイ行きの渡し船が出ていた。島との間に掛けられた橋が見えた。最頂部は海上72mもの高さがあるという。

島には好奇心をくすぐる何が有るか分からないが、初めての者には何でも珍しいのだ。探検心をくすぐるにはそれだけで十分だった。



すぐさま、スケジュールリングした。行きは所要時間がたった20分の渡し舟を利用し、帰りはあの高い！高い！橋をバスで渡って戻って来たい。高速バスの出発時間までには十分戻れるだろうと思った、その時は。

渡し舟に乗ってニテロイ島に向かった。振り返ると、ニテロイ島の対岸に広がる、3大美港と謳われるリオデジャネイロ港の景色が広がっていた。素晴らしい！息を飲むほどの美しさだ！絶句のみで声が出ない！

コルコバード：コッペパンを立てた様な巨大な岩山のでっぺんに、キリストが手を広げてローマに向かって立っている姿は有名(海から見る写真が見つからなかったので、航空写真を借用)



ポンディ・アスカ： 砂糖のパンの意。
やはりコッペパンを立てた様な岩山

等々が一望だ。

物珍しくて町の中をうろついていたのだが、
たちまち帰るべき時間になっていた。

その時になって始めて気が付いた。

「どうやったら、高速バスセンター行きの
バスに乗れるのだろう？」

持参したポルトガル語会話の本の中に

「バス停が何処にあるか」という質問の所を開き、近くの店に飛び込んで店員に見せた。

迂闊だった！ 質問は伝わった様だが、当然ながら返って来る言葉をこちらが理解出来ないのだからどうにもならないのだ。

今更ながら無謀だった事を知らされた。ポルトガル語の会話本を持っていれば大丈夫なんて、全く浅はかな！ 当然だ！



出張紀行 2 – リオデジャネイロで出会った神様 2/2 に続く